

新たな情報技術を活用した
「バーチャルパワープラント実証プロジェクト」の開始について

当社は、IoTやAIなどの新たな情報技術の進展による事業環境の変化に先発的に対応するとともに、お客さまサービスの更なる向上や、将来の事業領域の拡大につながる新たなビジネスモデルの構築に向けて積極的に取り組んでいくことなどを目的に、「バーチャルパワープラント（VPP：仮想発電所）実証プロジェクト」を開始することといたしました。

VPPとは、自治体や企業、一般のご家庭のお客さまなどが保有している発電設備や蓄電池、電気自動車など、地域に分散して存在するエネルギーリソースについて、IoTなどの新たな情報技術を用いて遠隔制御し、集約することで、あたかも一つの発電所のように機能させることです。

本プロジェクトでは、太陽光などの再生可能エネルギーをはじめとした分散型電源について、当社がVPPのエネルギーリソースとして集約し、需給バランス調整機能としての活用に向けた検証を行うこととしております。

また、公共施設などに設置されている太陽光発電設備や蓄電池を有効活用することで、地域の防災力強化につなげるとともに、電気自動車の蓄電池を電力系統につないで充放電する技術（V2G：Vehicle to Grid）の検証にも取り組んでまいります。

加えて、お客さまの設備や機器を有効活用することで、省エネルギーや省コスト化などにつながるサービスの開発にも取り組むこととしております。

本プロジェクトは、企業・大学・自治体などの様々なビジネスパートナーと連携しながら、2018年度から2020年度までの3カ年を対象に行うこととしており、実証で得られた知見やノウハウについては、新たなサービスの提供につなげてまいります。

当社といたしましては、引き続き、新たな情報技術の活用による取り組みを通じて、地域やお客さまのご期待にしっかりとお応えしてまいります。

以上

（別紙）バーチャルパワープラント実証プロジェクトの概要について